

幼稚園保導研究協議會

(昭和二十五年実驗幼稚園発表会記録)

時 日 昭和二十六年三月十日
場 所 千代田区立淡路幼稚園

當日の發言者(イロハ順)

徳久孝(千代田区番町幼稚園) 豊田いと
(千代田区淡路町幼稚園) 風間又四郎(東
京都保健課) 高杉新作(千代田区淡路小学
校) 中村昇(千代田区小川町小学校) 中
村魁(東京都教育庁衛生課) 村越ヒデ
(東京都教育庁指導主事) 大竹武二(東京
都千代田区教育課長) 及川ふみ(お茶の水
女子大幼稚園) 大野巳之吉(東京都教育
庁指導主事) 黒沢得男(東京都教育庁指導
主事) 黒田新市(千代田区指導主事) 小
林操(港区南山幼稚園) 寺井政次(千代
田区淡路幼稚園) 桜井たか子(千代田区
千桜幼稚園) 山村きよ(東京都教育庁指導
主事) 菱沼太郎(千代田区淡路小学校)
森岡盛久(東京都教育庁指導主事) 巢山
淳子(千代田区淡路幼稚園)

他、千代田区立公立幼稚園々長

公立幼稚園教諭 其他約百名

黒澤 教育庁指導部長にかわつて一言御挨拶を申し上げます。二十五年実驗幼稚園をお引きうけ下さいます。淡路幼稚園にまいりまして、本日私ははじめて幼稚園の実態にふれたわけであります。しかも不完全な条件の下で立派な研究をなされた、これには相当無理な努力をされた事と拝察いたします。そうして今日拝見したような立派な成果を御しめ下さつた事は都として全く感謝にたえないところで御座います。これはひとり学校側の御協力というだけでは、区当局の御理解、P・T・Aの御協力がある。これにもあつく御礼申し上げねばならぬ。

私は今日の教育体系という点から見て、小学校から大小学までは制度としても、実際としてもある程度のところに行つてゐると思う。しかしその前と、うしろが欠けてゐるではないかと思ひます。義務教育を終つてからの職業教育というものと、小学校に入る前の教育というものに大いに考へねばならぬ点がおおいではないか。学校教育法が施行された事によつて幼稚園というものも、学校教育の体系の中に入つて来た。これは全く劃期的なものであると考えます。しかしそれが実際にどのようになつてゐるかという点になるとまことに心細い。今日幼稚園教育の機会にめぐまれてゐるの

は、主として都市であつて、地方の農村に行けば、なかなかそんなものではない。この恩恵に浴しうるのは国民の一部分にすぎぬといふ。そういう意味から今後幼稚園の充実ということは大いに考えねばならぬ事と思ひます。生まれてから幼稚園に入るまでの組織的な保育という事について国をあげて真剣に考えねばならぬ。

私は郷里へかえる度びにいつも思うのですが、中学を出てからの青年の問題についても、昔は軍隊生活というものがあつて、それがよいかわるいかという点は別として、そこで一応組織的に訓練されるという機会があつた。しかし今はそんなものがないから、緊張とか責任感とかいう事が戦前よりも大分稀薄になつた。その結果として、夜な夜な町へ遊びに出て床屋にあつまつて下らぬ話をして時をすごすというよくな事になる。これが青年の将来につて決していゝはずはないと思うのです。同じようなことが小学校に入る前

の幼児についてもいえるではないか。幼児をどういふ風にしてそだてるかというよくなことは一向に進歩してない。十年一日の如く不合理で非衛生なことが平気で行われている。小学校に入る前に三年間幼稚園に入れるということは、こういう不合理な育て方をさされてゐる幼児達には是非必要なことです。しかしその恩恵に浴しうるのは国民の一部でしかないのだからこれは国家の重大問題です。勿論金もかゝりましょう。しかしどうしても幼稚園教育というものはもつと充実させて行かなくてはならぬという事は、国民各自ももつと真剣に考えねばならぬ。

本日は研究発表という意味と、それから幼稚園教育に関心をもつておられる権威ある先生方が沢山お見えになつておられます。どうか十分に意をつくして御討議ねがいたいと思ひます。

幼児教育の二人の先達

大竹 今回淡路幼稚園が都から実験

学校として指定されたについて、本日はその研究発表がなされる事になりました。これは大いによるこぼしい事だと思ひます。実験という事について、色々な問題がありましようが私が気がついた事を申し上げますと、幼稚園教諭の増員という問題、これは真剣に考えねばならぬ事だと思ひます。たとえばある先生が三ヶ月なり四ヶ月なりつゞいて欠勤する。その補充の問題が大変だ。小学校のように長期休養という制度があればいゝが、それがないために、補充の問題が非常にむづかしい。三人の先生の中一人休む。二人の中一人休むということになるとそれは非常に困る。この対策については緊急に何かの手を打たねばならぬと思ひます。

この機会に幼稚園という名称について愚見を申述べさしていただきませうが、何故幼稚園といつて幼稚学校、あるいは幼児学校としないのか。ガーデןといつてスクールといわないのか。

大体幼稚園、キンダーガルテンといふことを言い出したのはフレイベルだときいてをります。フレイベルはキンダーガルテンという言葉を考える時、相当なやんだという。当時の教育はどちらかといえば、新教育にたいする旧教育、いわば自由な教育に対して抑圧的な教育方針であつた。教師中心主義の教育思想であつた。そういう教育方針の下に可愛い、幼児をおいてよいのか。フレイベルは学校教育というものの弊害を考えたとする。それで靜かな山の中で瞑想に耽つていた時に、ふと、キンダーガルテン、幼稚園という名を思いついた。幼い生命を、木の若芽のような幼児達を、すくすくと伸ばして行く花園、ガーデンといふ事を考えた。それでシュール Schule といわないで、ガルテン Garten とした。こういう風に幼稚園教育というものは、はじめから新教育的であつたのであります。フレイベルの前にもロバート・オーエンが学齡前の幼児の教育といふこと

を考えた。オーエンは教育者でもなく思想家といふのでもないが、ニュー・ラナークに紡績工場を経営して、作業能率を高めるためには、どうしても労働者の人格といふ事を考えないといかぬと確信した。そのためには教育が必要だが、大人を今更教育したつて、もう一定の型に出来上つてしまつているから大した効果はない。それよりも無垢の幼児、これを教育する事が最も効果的だと考えて、そのための施設をつくつた。そしてこれを性格形成学園とよんだといふますが、フレイベルの前に、實際上の必要からオーエンが、学齡前の幼児の教育機関といふことを考えたといふのは大いに考えさせられるところだと思ひます。

思想の基底にかえりみよ

大竹 日本ではじめて幼稚園を開いたのは、お茶の水だつたか、京都だつたか、そこいら辺ですが、それは何か特権階級的なものであつたようです。

オーエンが考えたように、生産能率を上げるための基礎としてというように考えはなかつたように思う。

幼稚園というものは托児所とは建前が違ふから、それによつて家庭の主婦の能率を上げる事に寄与するとか、教養獲得の協力をするとかといふ事は多く考えなくてもいふやうなものだが、幼児教育に対する二人の先達、フレイベルとオーエンの考え方をふり返つてみると、幼稚園と保育所との交流といふ事も将来の問題として考えていふではないかとも思ひます。

幼稚園については遊戯だとか、衛生管理だとかいふ面については大分研究もすゝみ大いに進歩したといえましよう。しかし保育の根本思想といふ点についてはどうであるか。モンテソリーが恩物といふものを考えた、その基底になる教育思想といふ点について、何人の先生が果たして理解しておられるのか。そういう点については、フレイベルの時より、オーエンの時より一

歩もすゝんでいないのぢやないかと
う印象を受ける。今後は保育プランの
根柢をなす思想という面についてもわ
れわれはもつともつと研究しなければ
いかぬのぢやないかと思ひます。

それから最近修身科を復活した方が
いゝとか、いやその必要がないとかや
かましくいわれています。これは戦後
の思想の混乱という事を考えると、こ
ういう事がいわれなければならぬ。現
实的理由がある。徳育の問題では幼稚
園においても子供を保育するためにバ
ツク・ポーンが必要でしょう。幼稚園
の保育は単なるテクニクに止まつて
おれないで、もつとその底に追究して
行かなければならぬものがあるではな
いか。こういう事もこれから大いに研
究せねばならぬ問題でしょう。

併設する場合の考慮

寺井 千代田区には小学校が十五あ
ります。大体この十五の小学校に附設
の幼稚園が設けられると十五の公立幼

稚園が出来ることになります。現在は
十四出来ています。アメリカの教育使
節団の勧告書の中にも、費用がゆるす
ならば是非小学校には幼稚園を併設す
るようという事がいわれています。第
二次使節団の勧告の中にも、小学校の
パートとして幼稚園を設置しろという
事がいわれている。幼稚園教育がそ
ういう風に行うて行くということは大
変ありがたいことだと思ひます。

たゞ小学校に併設という場合に、建
物が大体小学校向きにつくられている
ので、幼稚園向きとしてはどうかとい
う問題がある。今後建築されるもの
は、小学校は当然に幼稚園を併設する
のであるから、当然そつう考慮は拂
われるものと思ひますが、今までは
建物に幼稚園を併設するという場合一
寸問題があると思ひます。

私の園はまだ経験も足らず、いろい
ろ問題もあり出来るだけ努力して新ら
しい教育の線にそつて行きたいと思つ
てまいすが、また至らない点がおお

い。よろしく御指導願ひたいと存じま
す。

本日御らん願つたのは、そつうい
ろいろの問題を投げ出して色々忌憚の
ない御批判を仰ぐという意味です。益
々御教示願わなければいけないが、ま
すもつて材料を提供して、おしえを乞
ひたいという意味です。御遠慮のない
御高評を願ひます。

(このところで座長を決める。千代田区
研究会の金川義種氏、八富士見幼稚園長、
座長となる)

豊田 本日の研究会につきまして
は、都の山村先生から色々御指導を
賜りました。どうやらこの程度まで
こぎつけたわけで御座いますが、しか
し、御指示にそつて努力はしました
が、成果は一向に上つていませんこと
を、深くおわび申上げます。本日、実
際を御らんねがつた中で、本当を申し
ますと、あまりおみせしたくないとこ
ろも御座いました。たとえば「藥物あ
そび」は一週間目、「人形の家」は五

日目というように、充分こなれていないものが多く、その不完全なものをごらんねがうのは、私共としてつらかつたのですが、しかし何事もありのまゝをおみせし、御批判をねがうという意味で、敢てその不完全なものをおめにかけた次第です。

御配りした調査物も、きわめて不完全なものです。しかし私共といたしましてはどこまでも実際に根をおろした保育、子供の実際に即した保育、したがってその記録ということを考えております。この調査は発表するための調査ではなく、こういう風にいるとしらべてみて、それをもとにして何とか保育のための新しい道を発見して行きたい。そういう念願で御座います。

寺井 昨年度幼児生活プランとしてカリキュラムを作りましたが、本年は更に実態調査を基とし日々実施した上に保育案を作りお手本に差上げたのです。又、小学校との連関をどのように

考えたらいいかということです。部屋はわかれていますが運動場も同じだし、職員室も同じ、そういう点をどう考えて行つたらいいのか、これについてもいろいろ考えていますが、何とか最もよい方法をとりたいと思つています。

座長 いよいよ本論に入りまして、本日のいろいろみなさんが御らんになつた事について忌憚のない御意見を御発表になつていただきたいと存じますが、最初に山村さん。あなたが皮切りをして下さい。

興味の問題

山村 私は興味の問題から入つたらどうかと思います。今日の保育を見ても子供の興味という事について私自身よくわからないことがあるのです。幼稚園が学校教育の体系に入つて小学校との関連が非常に緊密になつたわけですが、小学校の先生と、幼稚園の先生では子供の取扱い方にちがつたところ

がある。一口にいえば幼稚園の先生は子供を興味本位に取扱う、小学校の方は興味という事をあまり考えない。何か幼稚園の先生方からみると、子供がかあいそうだという感じがする。こういう点について考えて見たらどうでしょうか。

座長 徳久先生なんかどうお考えですか。

徳久 興味の問題は大変結構だと思えます。

山村 研究議題に上げていかゞですか。

徳久 とりあつかつて結構と思えます。

大野 只今の興味の問題、それについて本日拝見させて頂いた「お店やさんごっこ」この時の取扱い方について、巢山先生にききたい。

巢山 あの「お店やさんごっこ」の狙いは、お金の正しい使い方を指導するという事です。カルピス一本十五円、二本で三十円、という風にして、

十五円のカルピス二本かつて三十円拂う子もいるし、拂わぬ子もいる、その時に「三十円ぢやないかしら」という風に指導したのですが――。

大野 「人形の家」を拝見しましたが、あゝいう取扱いは失敗ぢやないかと思いますが、どうでしょう。正しい理解というものは、もつぱら「視覚」を通してなされるべきもので言葉を通してはどうしても観念的になる。大人だつてそうなんだから、子供は尙更です。今日先生はインドの話をされた。

インドとかガンジスという言葉が出た。あの時にインドとか、ガンジスという言葉は要らぬぢやないか。何故紙芝居というようなものを通してしなかつたか。あのストーリーのわかる子供は何人もいないと思う。紙芝居にして視覚を通したらどうですか。

豊田 紙芝居は見せすぎる程常にやつてをりますが、今日は話へもつて来ました。話術は下手ですが、ごらんの通り年長者年少者の混合組でございま

すのに、靜かに話にとけこんでいるあの様子をみて自分では成功してると思つてゐるのですが――併し、私も只今のお話のインドとかガンジスとかいふ言葉はいらなかつたと思ひます。

大野 話すということゝ聞くということとは別問題です。前をむいておとなしくすわつていたからといつてわかつてるといふことはいえぬ。おちついて、わかつてもわからなくともたと「聞く」ということに重点をおくなら別ですがね。

山村 大野先生のいわれることはよくわかりません。ハツキリおしえて戴きたいと思ひます。豊田先生の場合は一つの単元活動を終つて、皆が一緒にお話をきくという生活指導の場面ではなかつたかしら？ しかし実際の指導課程においては、カリキュラムの通りならわれない時がありますね。小林先生なんかどうお考えですか。

幼稚園保育と小学校の学習指導

小林 私はこう思ひます。幼稚園の保育を小学校の学習指導の線に引き上げてはならぬ。しかしながら、幼稚園の保育は、小学校の学習と全然ちがつた行き方をするものではない。――矛盾するが如きも私はそう考えます。

座長 これは大変むづかしいことになりました。

打越 私は、南山幼稚園、常盤幼稚園それから本日この淡路と三個所を拝見いたしました。それについていつも感ずることですが、幼稚園を見ると、幼稚園から小学校へののり移り方、それをどういう工合にスムーズに持つて行つたらいいかということですが、これは幼稚園と小学校の兩方の先生方が、よく話しあつて研究しあつて行かなければならない事と思ひます。本日こゝにおあつまりの先生方は、殆んど幼稚園の先生方ばかりのようですが、本当をいへば小学校の先生方にも多数おあつまりねがいたい。

只今、小林先生が仰言つたように、

幼稚園の保育は小学校の学習であつてはならぬ。しかし、幼稚園も教育体系——義務教育体系の一連として考えなければならぬ。これは意味の大きいことと思ひます。大体、只今の教育体系は、上から下を規定するという風になつてゐる。上のものに合わせるために下の方をどうすればいゝかということ。しかし又一面下から上を規定するということも考えられなければならぬと思ひます。幼稚園をみますと、子供の「場」というものが実によくとゞえられてゐるといふ感じがいたしました。こういうとゞのつた「場」にいる子供が、一年経つとまことに殺風景な固くるしいところにとび込まなければならぬ。それは何か無理があるような感じがいたします。私は今日の発達した幼稚園をみて、つくづくと思ひますが、小学校の一年生の学習の「場」、あれを何とかこういう形では入つてはいけないものか、ということをおもうのです。

先程からの問題ですが、幼稚園は興味中心だということ、お遊び中心だということ、しかし全然学習ということ、を度外視出来ぬとすれば、一体どの程度まで学習を織り込ませたらいゝのかその手加減はむづかしいと思ひますが、あまりに学習めいてもいゝかぬ。それかといつて「ごっこ」だけでもいゝかぬ。お金の取扱ひ方だつて中々むづかしい。先程、カルピス十五円のもの二本で三十円というふうなお話が出ましたが、これは小学校でいゝば二年生の程度です、これをどういふ風にやつて行くか。

森岡 幼稚園の子供の生活は遊びであるかどうか、仮りにそうとするならば、彼らのやることいゝえは「ごっこ遊び」につきるわけです。その場合の「模倣物語りあそび」といふものを、どの程度に、どのように指導するか。山村 その「模倣物語りあそび」といふのは何ですか。

森岡 子供は何でも模倣し、擬人化

するでしょう。動物にもなれば、乗物にもなる、そういつたことです。遊びだけにするか、別に何かを狙うか、これが一応問題になると思ひます。

「買物ごっこ」のねらい

森岡 それから興味ということ、子供の要求の承認ということですが、私は幼児であるからといつて、子供の要求を何でも承認せねばならぬということはないと思ひますね。いやだといふ子供もいゝし、それも引つばつて行かなくてはならぬ。先程フットボールの真似をするのがありました。中に入りたくないという子もいるかも知れない。しかし共同生活としての社会性をやしなうということになれば、教育技術において、好きになれるように引つばつて行つていゝではないか。「買物ごっこ」の場合にしても、実生活とあまりにかけはなれたのは、それでいゝものかどうか。今日コーヒー一杯十五円ではおめません。最低三十円位

だ。カルピス一本十五円というのは少しく実生活とかけはなれてはいないか。やはり実生活に近いものを示す必要はないか。しかし子供に一〇〇円とか五〇円とかいうのは一寸むりぢやないか。

巢山 そのカルピスの値段の問題なんです、あれは子供にきいて決めたんですし、子供の云つたねだんの中からアイスクリームはいくらいくらにしましょう。カルピスはいくらいくらにしましょうという風にきめました。その点お菓子等は実際の値段とよくマツチ致しますが、時計とか反物とかは困ります。時計は本物だつたら五〇〇円ではとてもかえませんし、玩具だつたらもつと小さい金額で買えます。この時計や反物を本当のものとして取扱うか玩具として取扱ひ種々考えたのです。幼稚園の幼児は総て模倣なのだからこれは玩具として取扱つた方がいゝと思う。とに角子供と相談して決めたのですが、私もこの値段のつけ方には相

当困りもしましたし、又疑問に思うことがおおいのです。

しかし私はこの「買物ごっこ」において、値段がどうこういうことよりも、お金の正しい使い方を指導するという考えでやりました。こういうことがあります。男の子で一寸乱暴な子ですが、「これくれよ」といつて、たゞ持つて行つてしまふ子がいました。その時にお金を出さないと、品物をわたされないとということを指導する。お金と物との交換ということを指導する。

子供達自身で一個五円のアメを二つ買つて十円というところ、お札をわたしていただきます。数観念の指導ということもありましようが、私は金と品物との交換というところと又それにともなう礼儀の問題に狙いをおきました。

打越 この程度のお値段の問題は、幼稚園というより、小学校の二年生位に相当する問題です。数観念ということとを主体にすると、どうしても実生活にあわぬ点がよくるので、幼稚

園では「ごっこ遊び」だから値段を仮定したつていゝではないかと思ひます。「ごっこ遊び」はエチケットの問題で、数観念は別にしていゝではありませんか。

言葉づからの指導につらて

徳久 今日拝見しまして、子供達の言葉の発表が正しいということに感心いたしました。それが「劇あそび」なんかにもよくあらわれているように思いました。それについて何か特別な御指導でもなさつてらつしやいますか。

豊田 私としては特別に言葉の指導というようなことはやつておりません。しかし常に子供達に、発表する機会ということを心掛けてやります。与えてやることを心掛けています。お話のあととか、紙芝居のあとなんかには、必ず何か話させるようにしています。この間雪が大変降つた時が御座いましたがあつた朝、黒板に「けさおきてみたら」とかいておきました。子供は字がよめ

ますから……。そしたらそれをみて、子供達がいろいろ話します。そういう機会を与えるように心掛けています。子供同士の話しあいの時にも、そばできいていて、ちがつたことをいうときに直してやる程度にしています。

櫻井 「劇あそび」は大変おもしろく拝見いたしました。最後に「しける」という言葉を子供がいまましたか……。

菱沼 「劇あそび」のセリフは別に決めたわけじゃありません。今日の「しける」という言葉は決していい言葉ではありません。しかし子供が自然にそういう言葉を出したんです。

山村 「劇あそび」の狙いは、やはり言葉の指導という事も相当重要だと思えます。子供はわり合いに卑俗な言葉を早くおぼえるものです。たとえは「ギョツ」というような言葉ですが、子供にはあれが大変興味があるんですね、しかしそのまま放つておいていいかどうか。

菱沼 正しい言葉遣いということは勿論大切なことです。自分の解する限りでは、正しい言葉遣いとは、社会的な共通語を話すことだと思つてます。けびた社会にはけびた言葉がありましようし、上品な仲間の間には上品な言葉がありましよう。その限りにおいて先程の「しける」というようなことも、ある社会の共通語としてみとめられる限り、その時の実感として許されますが、順次指導はすべきです。

座長 風間さん何か一つ御意見をもらし下さい。

保育にも段階があるということ

風間 一体幼児の保育というものは、心理学的な面と、医学的な面とが表裏一体にならなければならぬ。本日のお話は、心理的な面ばかりで、私は大変いろいろと教えて戴いた点がおおく、感謝にたえない次第ですが、しかし同時に医学の面、健康の面についても考えなければいかぬと思えます。

「遊び」の場合、その「遊び」からとび出した子供の措置はどうするかというところは、心理的な問題であると共に、医学的な問題である。この園では幼児の戸外遊びというものの割合はどの位になつているかわかりませんが、「お遊戯」というものは大体室内でやることの方がおおいのではあるまいか。室内の遊戯もいゝが、大いに日光にあたつて戸外の遊戯をすることも考えなければいけないと思えます。日光のよくあたる戸外がある時に、ワザワザ室内でやる事はない。

それから先程から「お遊戯」の場合に、外にとび出す子供のことが出ましたが、これをどういう風に引き入れたらいいのかが、話が少しくワキ道にそれるようですが、私が最近アメリカン・スクールを見て感心した点についてお話ししたい。

アメリカン・スクールで、授業しているところをみたんですが、どうも姿勢がよくない。廻轉いすに腰かけてる

んですけどからだをうごかしたり、中には横になつたようにして、足を向うにのばしてゐるものもある。それをみても先生は一向に咎めんのですね。まことに一応はだらしない。ところでもたまたま、その時は書取りをやつてましたが一人の子供が鉛筆で、前にいる子供の頭をつゝいた。すると前の子供がうしろを向いて、つゝいた子供と何か話をした。授業中は私語をしてはいけない事になつてゐるんですが、それを私語した。すると先生がその子供の方をじつとみつめた。はじめは子供も先生にみられてゐるということに気がつかなくなつたらしいが、その中先生の視線にパツパツとあつた。するとその子供は、パツと顔をあからめて、スゴスゴと席を立つて、うしろの方の控室へ行つて、自分のオーバーからハンケチをとり出して、鼻をかんで——これは鼻が出るからではないので、非常に自分自身というものをばづかしいものだと思つたせいだということがよくわか

つた。この時は完全にその子供は、自分のしたことについて、自分自身を懲罰したんだと思う。それから校長にあつて、どうもこの学校は姿勢がわるいと卒直にいつた。すると、校長は、あなたは正しい姿勢というものを見てくれましたかという。次の教室には正しい姿勢の子供がいるという。で、次の教室をみたら、こゝも姿勢のわるい子供がいるが、しかし腰を深くいすにかけて背をのばした姿勢のいゝ子もいる。校長はそれは段階だということなんです。つまり姿勢をよくさせることについても、それゝ段階があるというんです。この段階ということは大変おもしろい事だと、深く感じて来たんですが、沢山いる子供の中には、健康上から動きえない子供、うごかしてはいけない子供、うごかしすぎてはいけない子供がいる、そういう段階については、十分に注意してほしいと思うのです。

あらわれよりも指導課程を

徳久 本日は「劇あそび」を四種類みせて戴きましたが、これを指導された菱沼先生に四つを選んだことについて御意見をうけたまわりたい。

菱沼 「日向ぼっこ」は遊びを巡環させて行く、いくつものグループがある。そして飽きるまで続けられるという事を狙いました。あの中の「押しくら饅頭」だけでも、どこまでもつゞけられる。

「楽隊遊び」は、おもちゃのマーチを中心にして、歌をおしえるために遊戯をするようにし、歌を中心にしてすゝめて行つた。あとの二つは脚本があつて忠実に劇化したもので、あらわれよりも指導課程に重点をおきました。劇作家の立場からいへば、劇の狙いはセリフそのものであるべきですが、私はセリフが正確だかどうかということよりも、子供の中から自然に出てくる言葉というものを捉え、言葉と表象と

を一致させるように努めました。言葉は環境にふさわしい発言があればよいと思うので、劇の演出そのものは作者から見れば不満足かも知れないが、それでもよいと思つてゐる。あらわれはどうであるかと、結局指導ということに主眼をおいて、演劇ということを必ずしもよく知らなくともいふから、それによつて教育するんだということ、妥当だと考へるものについて、その意図をおしすゝめたらいいではないかと思ひます。

森岡 「ボール遊び」についてですが、あの評価に「遊戯規則がよく守られているか」とありますが、一体ボールをキツクするというのは小学校の四年生位になつてはじめて可能なことではないですか。幼稚園の幼児には無理だと思ふ。あの年頃の子供にはむずかしいルールなんて要らない。あまり物真似にすぎるのはよろしくないと思ふ。

豊田 物真似をさせたというけでわ

はありません、小学校の生徒がやつてゐるので、それを幼稚園の子供が興味をもつて真似をしたのです。毎日このあそびに先生が引き出される形です。子供自身はよろこんでやつてゐるんです。評価のところに「規則」と書いたのは適当な表現ではなかつたようで、「規則」といつても本式のルールなんでものではなく、たゞ子供同志の「話しあい」程度のものです。

森岡 ボールを投げるとか受けとるとかいうのは、幼稚園の子供にはむりです。程度が高すぎる。段階的に子供の身心の発達程度に應じたものを与えるようにしなければならぬ。

数の取扱い方をどうするか

座長 今迄いろいろなお話がありましたが、その中には時にお互に矛盾するようなお話もありましたが、個人個人としてはとにかくうなずくところがあるではないかと思ひます。しかし一応こゝら辺で小林先生に、裁定して

いたゞいたら如何でしょう。

小林 結論を申上げる前に一言二言いわしてゐたい。今日は「劇あそび」を見せて戴いて大変うれしく存じました。言語活動をあゝいう風に「劇あそび」にとり入れて、セリフを別にあたえないというところに本當の子供の声が出る。非常に活潑に自信を以て表現されていて誠にうらやましい感じがいたしました。先程、変な言葉遣いの問題が出ましたが、これは環境というものを考慮すれば当然あゝいう言葉遣いが出るという事は考へられる。それを無理に封じ込めようとするのは却つていけないじやないかと思ひます。問題は幼稚園以外の環境にあるので、その時に指導しなくとも、又の機会にいくらも指導する時があると思ふ。あまり制限することはよくないと思ふ。それから算数の事が問題になりましたが、文部省の方の保育課程には算数に該当するものがありません。しかし幼児の生活の中には、明らかに算

数の生活がある。十円貰つた時何を買
うか。アメを買うか、何を買うか知ら
んが、とにかく何かを買うという事は
あると思う。百円札を貰つても、なれ
た子供は何かを買う事を思うでしよ
う、我々現場のものは、「こつこ遊び」

といつても、たゞ「遊び」に終始して
いゝか、わるいかを考えなけりやなら
ない時がたしかにある。この機会に、
数に対する取扱方をどうすればよいか
を、ハッキリ決めて戴いたら大変結構
だと思ひます、たゞ、私としては「こ
つこあそび」は、幼稚園に関する限り
「遊び」でおわつていゝのではないか
と思ひますが、及川先生、どうでしょ
う。

及川 私は何事も子供の経験内容の
問題だと思ひんです。この地区は商業
地区ですから子供の経験内容も、他の
地区から比べて多いと思ひます。こと
にお金に関する子供の経験内容によつ
てハッキリしているものは、ハッキリ
させた方がいゝと思ひますが、反物と

か時計とかの場合には、直接子供の経験
内容ではない。だから五〇〇円の時
計、五〇円の反物といつても、それで
いゝと思ひんです。

座長 高杉さん、御意見を伺いた
す。

幼児に対する科学指導

高杉 私は科学指導という事で申上
げたい。一体幼児に対する科学指導と
いう時に、幼稚園の幼児に、どうい
う場合に科学指導するかという問題だが
私は幼稚園では、たとえば花なら花を
観察するという時に、「花をめぐる」
という段階でいゝと思ひます。それ以
上すゝんで、おしべがどうの、萼がど
うのといふことはいらんことだ。

保健という面でも、運動の場合ルー
ルをおしえるとかいうのはあまり考え
んでもよい。子供はだまつていても動
くものだ。動きすぎる位うごく。むし
る私は「動かす」というより「休養」
といふことを考えたい。おとなしくし

ていゝといつても、おとなしくしてい
ない。「休養」といふ事は真剣に考え
ねばならん。

それから数のことですが、幼稚園の
子供は一〇〇も二〇〇も凡て一に考え
る。小学校に上るようになって、その
正月頃からはじめて数といふことを考
える。しかしそれも自分の年の数より
下の数です。それ以上の事はむずかし
いじやないかと思ひます。学龄前の子
供にとつても一〇〇も二〇〇も三〇〇も
五〇も、みんな一です。三〇円、五〇
円、一〇〇円、二〇〇円といふような
ことをおしえるよりも、むしろ、しつ
かりした一をおしえる。それでいゝの
だと思ひます。先を急いじやいけません。

私は幼稚園で果たして単元教育が可
能なりや否やを疑つてゐる。勿論単元
の捉え方ですが、これを生活の一断面
と考えると、単元教育はむずかしいじ
やないですか。幼稚園の子供は刹那、
刹那だ。その刹那、刹那の子供を捉え
て、そういうことはむずかしいと思

う。

座長 この点で黒澤さん、何か御意見ありませんか。

学習における「ごっこ」遊びの意義

黒澤 私は素人で幼稚園のことはよくわかりませんが、先程から「ごっこ遊び」とか「興味」の問題が出ました。が結論は、ハッキリしているようで、又必ずしもハッキリしているわけではない。しかし結論は小林先生の仰言つたことに尽きるではないかと思う。小林先生は小学校の学習と幼稚園のあそびとはちがう。別のことを以てすれば幼稚園には幼稚園の生活があり、小学校には小学校の生活がある、「だが幼稚園のあそびは小学校の学習と別のものであつてはならない。」これは矛盾する如きもやはりこういうものだと思ふ。

そこで色々問題があげられましたが一ごっこ遊び」については私はこう思

う。「ごっこあそび」を小学校でとり上げる場合、そのあそびが学習になつているかどうかの反省がなされねばならぬ。幼稚園ではそれでいいが、小学校ではそのまゝ許されるかどうかの問題、二年生、三年生になつてもそういう考慮の必要な場合もある。大体子供というものは、表現方法のまづいものである。その場合、「遊び」は最も子供に適した表現方法である。その遊びの中に、子供の経験の中に、生活学習の中に表現された要素の中で、認識の不完全なもの、偏よつたもの、誤まれるもの、これをとり上げて経験の再構成という意味において、子供の生長をたすける。これが学習における「ごっこ遊び」の意義ではないかと思う。

幼稚園の遊びをそういう角度から見ると、小学校の学習とちつとも違わないう事になる。だから私は「遊び」は遊びのまゝに終始して一向にさしつかえないものだと思ひます。不完全なものをおまりに高いところを持つてく

ると、学校の学習とちがわなくなったり、むしろ低いところで抑えた方がよいと思ふ。たゞあまりに低いところで押えておくと、それは幼稚園の教育にならぬから、たとえ「言葉遣い」とか「金と物との交換原則」だとかいう位のことはおしえねばならぬと思ひます。コーヒー一杯十五円が妥当かどうか、これはどつちでもいゝではないか。たゞ、没頭しさえすればよいのだ。実生活の値段でやると高度な学習になる。むりが起きる。「遊び」を中心にして、しかも「学習」の本質を忘れてならぬという事になります。幼稚園と小学校のちがいはハッキリしてるわけです。しかし幼稚園の最後と、小学校の最初は同じだ。これをどういう工合にスムーズにむすびつけるかが問題だ。

それから今日の保育案を拝見して一寸意見がありますが、一番、二番はよいとして、三番、四番は、もうこれは中学、高校の部類だ。五番に至つては

表を見た時ゾツとした(笑)これについて小林先生に一つ高評を得たい。

体罰について

黒澤 その前に一寸質問がありま
す。それは統計表の中に注目すべき事
がある。三頁のところ「体罰」のこ
とが書いてある。体罰という事を学校
としてどうお考えになるのか。それか
ら子供のもつ疑問のことですが、これ
を見るとすいぶん分高度な疑問をもつ
ている。人間の發生に関するもの、生物

の起源、天文現象——中々大変なもの
だ。これを實際保育案でどう扱うか。

豊田 只今の体罰のことですが、こ
れは家庭で子供をしつける時にどうい
う方法をとるかについて調べたのです
が、大体この辺は商店街ですから、子
供は幼稚園まかせというのが多い。朝
洗面しないでくる子もいます。乱暴な
子もいる。「どうもいう事をきかなか
く」という親がおおいのです。

黒澤 二枚目で一家庭の幼児に対す

る指導」というところで、「中庸」と
いうのが八割程度だが、その中に体罰
を加える家庭が六割もある事になつて
いる。学校では体罰を加えることも又
「中庸」だとみとめるのか。アメリカ
あたりでも子供のお尻を叩くとかいう
事はあるらしいか、日本では頭をなぐ
るでしょう。そういう事を承認されて
いるのですか。

豊田 それはマア極端な家庭ですが
「先生いくらいつたつてわからないで
すよ」という。われわれは「よく言い
きかしたら……」というのですが「ど
うしてもわからないので……つい」と
いう。

黒澤 体罰容認というのは、アメリ
カの悪き模倣じやないかな。

小林 体罰といつて押入れに入れる
位のものでしょう。

黒澤 頭をなぐるのもいる。これは
自分の経験では失敗だな。

寺井 日本の家庭ではやらぬ方がい
いと思う。

幼児の疑問をどう処理する

豊田 それから「疑問」のことです
が、これは子供によつて非常に智能差
がありまして、子供によつては高度の
疑問を出す子がいます。これを折りに
ふれて記録しておいたものです。学理
的な説明をしてもわかりませんから、
結局、疑問にこたえて疑問を更に深く
するというように持つていけばよいの
ではないかと思いますが、非常にむず
かしいことです。黒田先生あたりに伺
いたいと思つてました。こんな事が御
座いました。あるところに子供をつれ
て行つた時、木の葉が黄色くなつて
るのがある。子供達はお互にそれにつ
いて話してるんですが、どうも日のあ
るところが黄色くなるのだという事
になつたらしい。ところが日の当ると
ころにいるのに黄色くならない葉があ
る。それは椎の木なんです、それは
おかしいという事になつた。するとそ
こにいた女の子が、「あれは一年中黄

色くならない葉だつてお母さんがいつたわよ」といいました。それから少し歩いていたら寒々とした陽蔭に葉が茶褐色に色づいていたのです。それをみつけた子供が先生「こゝは陽があたらないがどうして黄色なんだろう」とつて質問されました。幼児の疑問には私達指導者は充分な理論の研究がなければならぬと痛切に思いました。

黒田 幼稚園の科学教育をどうするか、その年頃のいろいろな疑問をどう取扱うかという事は実は相当困難な問題なんです、大体こゝした疑問を持つという事は科学教育理科教育の出発点で、それ自体は慶賀すべき事なんです。幼児のもついろいろな疑問、それを「そんな事はどうでもいゝんですよ」という風におし潰してしまふのはまずい。出来るだけ具体的に、時には多少科学的に歪められたつていゝから、わかるように説明してやるんですね。実際現在の科学者だつて本當にわからない事がずい分と多いのですから

菱沼 一寸申上げますが、先程の「家庭の指導」のところで嚴格、中庸という事なんです、これは「劇あそび」なんかやらしてみるとすぐわかるんです。嚴格に育てられている家庭の子供は、一言でいえば「固い」と感じ、とけこめないんです。大人の枠をはめられ、結局世界がせまいんですね。私はいつても親達にいつてやるんですが、「子供のわがま」という事もあるだろう。しかし親達の方がもつとわがまなのではないか」と

中村(魁) 先程子供の疑問をどう扱うかという事でしたが愚見を申上げますとこれは前にある本でよんだんですが、日本人は人から問はれた時にすぐ返事が出来ぬと「あいつは物知らず」だということになる、英国人は「明日返事します」という。アメリカ人は「図書館に行つてしらべて返事をする」という……。それで子供から何かをたずねられて、即答出来ない時には、明日

まで調べて来てとか、又いついつまでハツキリさせてからとか約束した方がよい。その約束をスツボラかしたら子供達から「先生は知らないんだ」といわれるだろうが、その場でいゝ加減な嘘をいつてゴマ化すよりはいゝと思ふ。

幼稚園とカリキュラム

座長 時間も大分予定よりのびていよいよ大詰に来た感じですが、こゝいり辺で一つ及川先生に御講評をねがいたい。

及川 今日拝見しまして、子供達が大変元気なのは何よりも、うれしいと思います。私は戦災をうけてから丸二年限この近くに住んでをりましたので、こゝいり辺のことはよく存じてをります。環境がよくわかるんです。一つの家に何世帯もおつて、十分な遊び場がない。本日は今は雨が降つてますが午前中は幸い大変いゝ天気で、子供達がひろい運動場で元氣よく遊んでい

る。垣根の外から近所の子供まで顔を出して、うらやましそうにみていました。私は大変うれしいと思いました。

室の中には十分な玩具がある。子供達や先生方のおつくりになつたものが沢山あります。戶外室内共に子供達に満足をおたえるように行つてゐる。本当に嬉しいと思ひました。小学校の子供の姿もみえず、全部幼稚園のために提供されているという感じでした。大公立の幼稚園は、独立した遊び場をもつてません。週に一度でもいゝから、こういう風に幼稚園のために開放してやるという配慮がのぞましいと思ひます。小学校と幼稚園の先生方の御協力ぶりもうらやましい限りです。

本日の大体的話は、先程から黒沢先生と山村先生の問答の中に、實際保育しているものであればおのずから感得するものがあつたと思ひます。大変心すよい感じがいたしました。

刷り物(カリキユラム)だけをみますと、大変むずかしいところもありま

す。「ごつて遊び」も年齢的に必ずしも容易でないというものもある。しかし幼稚園からいえば、カリキユラムの全部を、あらはすという事は必ずしも考へていません。カリキユラムの内容

が、全部あらわされるといふ事は、幼稚園という性質上、期待すべきじやないと思ひます。十人の子供なら十人の子供全部に及ぶといふ事を期待してはいけない。もれる子供もいる。それは仕方がない。そういう点に小学校の先生方からの御批判もあると思ひますが、幼稚園は、カリキユラムを十分研究して、計画全部を要求するわけじやないのです。どれだけうけとつてくれるか、一部分しか子供にうけとつて貰えぬという事もあります。いはゞ「労働多くして効少い」仕事なんです。幼稚園の先生は一体何をしてゐるんだといふような御批判もあります。おそくまでのこつて、いろいろしらべて、しかもそれで十分ではないのです。こちらはよく調査も出ています。ゆきとよい

た案の下に保育されていて。大変うれしい限りです。

座長 次に山村先生、しめくよりのお言葉を。

小学校と幼稚園の連繫をもつと密接に

山村 教育庁主催の實驗幼稚園最後の発表会として今日淡路稚幼園の一年間の御研究の後を拝見して皆さまもそれ／＼の立場で感ずる所があまりの事と思ひます。最初南山幼稚園の発表会の折にいろいろと討議された後で私が一寸耳にしました事は、あのようにな年生の連絡まで見せて下さつた計画の爲、に圧縮された時間に定められた保育計画全部を見せて頂いていくらか固くるしい、子供の自由な動きが見えない……といふことでしたので第二回目の常盤幼稚園の発表会の際にはこの点を考慮して子供達の実態と結びついた用意周到な保育プランを用意しておいて、子供達の生活の流れはどこまでも

自由にそのプランの中にとびこめるようにと先生方ともいろいろと相談して当日を迎えましたところ、当日は余りに多くの參觀人で、あのように保育室の入口にも至る所に人垣を造つてしまつて、子供達も園全体を使つていろいろの遊びに飛こめなかつたのと、先生達も日常の気分よりいくらか上つていたためか、積極的に指導せねばならぬイチャンスを見逃してしまつたところもあり、小学校の指導主事の先生方からは「幼稚園には指導はいらぬのか」「いつ指導するのか」「いつまで遊ばせておくのか」等々の御質問をうけて、私が一人で答辯した形になりましたので、今回淡路幼稚園の時には最後のしめくよりの意味もありますので、私も責任を感じて度々御相談にのりまして、今までと違つた保育形態を見ていたゞき、又多くの御批評をいただく爲にも講師の講演などぬきにしまして先程からゆつくりと充分に皆様の御討議をいたゞいたわけで御座いま

す。幼稚園の実際家の方々には先程からのお話でそれ／＼皆さまの御考えがまとまつた事と存じますが、たゞ私、少々残念に思いますことは、先程の様に小学校側の立場から色々とお話が出ました際に、もつと幼稚園の現場の先生方から沢山の發言があつて学習につながる、幼稚園の遊びの生活が具体的に示されたり、生活の中で自然に行われている「指導」の面が具体的に示されたら、もつとよく幼稚園の実態をつかんでいたゞくことが出来たのではないかと思います。先程から度々お話に出て来るように、やがては学習に入らねばならない就学前の生活、ことに入学一ヶ月前の三月の幼稚園の生活が、本日の淡路幼稚園の生活を通じてもうなすけるように幼児の生活経験が相当ふくらみをもつて入学して行く時、一年に入学してから少しでも足ぶみして行くようでは子供達の爲にも、幼稚園の進展の爲にも大いに考えさせられることと思ひます。私共ももつと小学校低

学年の学習内容をも知つていて学校の先生方と充分連絡をとる必要があると思ひます。今まで幼稚園はだれもかまつてくれぬと私なんかすいぶん残念がつたものでしたが、今日はこうして多くの指導部の先生方から問題をなげかけられて小学校の観点から幼稚園の実態にふれていろいろと御批評いただいた事はほんとによい勉強になつたと思ひまして嬉しいかぎりです。

保育者の責任を感じる

山村 先日も常盤幼稚園の研究會の折、及川先生が卒業生の肩をたたかれ「うづかりしてはいられませんよ」となにげなく云つておられた後に立つていてほんとに私まで痛感していることです。「今日あなたは子供達の爲にどんなことをしてあげましたか」「今はどんな指導のどんかひにありますか」と問はれた時にはつきりと自信をもつて「A子の〇〇はここまで進んできました」「これがこの子にとつて一番大事

なガイドンスである」と……：自分のしている仕事は他人にもわかつてもらえるように努力することも又私共保育者の責任の一つだと思えます。今までの三回の発表会でそれ〴〵違つたカリキュラムのもとに、それ〴〵一年間の成果を見せていたゞいて、ほんとに心づよく感ずると同時に、又新たな研究意欲をもたれたことと存じます。研究を指定された幼稚園の先生方の御苦心はほんとに涙ぐましいものでした。それ〴〵の会場で渡されました印刷物が皆さまの苦心の後をより一層つよく物語つていることをさとられたと思えます。どうぞ御参会の皆さまにはこのような研究会の感激を胸におさめて四月からの新入園児と、新学年度を迎える心の準備にしていたゞき度いと存じます。

中村(昇) 最後に閉会の辞に代えて一つ。

先程、農村の子供は幼稚園の設備がなくて可哀想だというようなお話たつ

た。しかし私はちがう。農村のあゝいう健康な大自然、あゝいうところになら、子供は放つぽつておいてもよい。可哀想なのは都市の子供です。ロクな遊び場もない。当区の如き十五の小学校の中十四に幼稚園が出来ています。しかも希望する子供を十分に收容出来ないのです。公立幼稚園は寥々たるもの、收容出来ずにとりのこされている子供達の事を思うと胸がいたい。何よりも幼稚園の数をふやすことではどうか。これは必ずしも夢のような話ではないと思う。基準をきめて、基準以下のものは切りすてる事にすれば、切りすてられる施設は、必ずやその基準まで高めてくれる。それから現在、区で負担している人件費を都で出す。都はもつと幼稚園の増設拡充について懸命になつて貰いたい。

座長 いろいろありがとう御座いましたこの辺で。

記録者より——本稿は選記術による逐語記録ではありません。しかし所謂要領筆記というのでもありません。新聞社等でインターヴューの時に用いる談話筆記の型式によるものです。私としては出来るだけ正確に、各先生方の発言を記録したつもりですが、筆記型式に一定の制約があり、時に誤まつて記録した点もあること、思つています。そういう点は偏に御諒恕ねがいたいと存じます。

編集委員 西山浪太郎

× × ×

× × × ×